月イチHappy　2013.8月号

一級建築士である渡邊美恵さんとの出会いは、2011年に実施された福岡市主催の女性起業セミナーです。“木に囲まれた暮らし”について語る時の渡邊さんのやさしい表情は、当時と少しも変わりません。早速、その想いの原点を語っていただきました。

「杉の気持ちを思うと、いたたまれなくて」

●資格は、足の裏の米粒！？

一級建築士の資格は合格率が約10%とされ、その中でも女性の割合は約1／5に絞られます。「昔から一級建築士の資格は“足の裏の米粒”と言われ、取ったからといって食える訳じゃないって言われてるんですよ(笑)。しかも建築の現場では、女性はまだまだ一人前に見られないことも多いですし」と渡邊さん。

えっ！女性が少ないからこそ重宝されているのかと思ったら…「だからこそ、女性の視点や感性を生かした施工実績を一つずつ積み重ねていくことが大切だと思っています」渡邊さんがこれまでに手掛けた物件は、住宅をはじめ、イタリアンレストランの内装や、和のコスメを取り扱う店舗設計など多岐にわたります。渡邊さんがおっしゃる“一つずつ”は、自分に依頼してくださった“一人ずつ”に対する深い想いが込められているように感じます。

●街の中に森をつくるという発想

この日の取材は、渡邊さんが基本設計から最終調整まで手掛け、完成したばかりの一戸建てのお宅で行われました。一歩足を踏み入れると、心地よい木の香りがします。「フローリングや建具、テーブルやオブジェなど、これ、ぜんぶ杉の木なんです。私が手掛ける建築物のコンセプトは、“街の中に森をつくる”こと。ところで杉は今、日本全国で余っているのをご存じですか？」お恥ずかしながら、杉といえば花粉のイメージしかありません…「そうですよね、日本は古来から杉という吸放湿性に優れた森林資源を植林しながら使ってきたのですが、昭和39年に高度成長の建築需要から国が木材の輸入自由化を認めたため、国内の杉を伐採しても生産性が合わなくなったんです。その結果、山の手入れが行き届かず、山は荒廃の一途をたどり、老いた杉と細くて成長できない杉が大量に余っています。花粉の大量飛散は、杉の過密状態が原因とも言われているんですよ」

渡邊さんは建築物の設計やデザインだけじゃなく、自然界の問題にも取り組んでいらっしゃるんですか？「いえいえ、そんな大それたことではないです(笑)。ただ全国で問題になっている地域材を利用することが、森にとっても人にとってもプラスになるなら…という想いで、微力ながら活動させていただいています」

●物言わぬ杉の代弁者として

渡邊さんにとって杉は、日本の建築素材になくてはならない貴重な資源の一つです。「とにかくまっすぐに伸びる素直な木だから、大量消費の時代に翻弄されているのがいたたまれなくて…。今、“手の間”という雑誌に木に関するコラムを寄稿しているのですが、どうも私、杉の気持ちを代弁することに使命を感じているのかもしれません(笑)」

最後に、建築士である渡邊さんが自分の家を建てるとしたら、どんな家を建てるか尋ねてみました。「近くの山の木を使用して、四畳半の茶室をしつらえたいですね」なんて素敵なんでしょう。それはもう、Happyなお点前で！

Profile
一級建築士事務所　ののデザイン／代表　渡邊 美恵
福岡県北九州市出身。1988年より関西の店舗設計に従事。1997年、トヨサキ産業に在籍中、イタリア・ミラノに約1年滞在。2003年、安成工務店で地域材利用促進活動に携わり、2012年に独立。九州森林ネットワーク理事、耳納杉産直ネットワーク会員としても活躍中。

フォトグラファー／西田 佳世